

税金は、様々なところから国に納められ、国をよりよくするために活用されています。税の制度は国によって違い、それぞれの国の考え方や政治の特徴が反映されていると僕は思います。僕はアメリカに住んだ経験があるため、アメリカの税の仕組みに興味を持ちました。そこで、日本とアメリカの税金の集め方や使い方を調べ、比較してみました。

日本では、所得税、法人税、消費税が国の主な収入源です。しかし、アメリカには消費税がないということが調べて分かりました。その代わりに、「小売売上税」というものがあります。消費税は商品の製造や販売をする業者も納めるのに対し、小売売上税の対象は消費者のみです。アメリカが消費税を導入しない理由として、新しく立ち上がった企業などが倒産しやすくなってしまうことが挙げられます。アメリカには自立主義の人が多く、新たな企業が次々と設立されています。企業に税を課さないことで、経済の流れが良くなり、国にとってプラスになるという発想に感心しました。

アメリカでは税率が州によって違うことも多いです。小売売上税が課せられない州もあります。アメリカ合衆国は連邦制で、日本の都道府県と比べて、アメリカの州は権限が強いです。国内で全てを統一せず、各州の政治の自由度を高めているアメリカの制度もユニークで良いと感じました。

日本では、税金の使い道の中で最も高い割合を占めているのは、社会保障関係です。社会保障にも大きな違いがあり、アメリカには全国民を対象とした公的な医療保険制度がありません。高齢者や障害者、低所得者のみが対象と限定的で、多くの人は民間の医療保険に入っています。この影響もあり、アメリカでは医療費が全体的に高いです。誰もが安心して医療機関を利用できることは、日本の社会保障制度の良さだと思いました。

税金は教育にも使われています。アメリカでは、日本と違い、高校までの12年間は義務教育になっていて、制度が地域によって異なります。しかし、どちらの国も、公立学校の生徒一人当たり、年間100万円以上の教育費を負担しています。僕たち生徒のために国が払っている金額の大きさに驚きました。

日本とアメリカの税の制度について調べる中で、僕は様々な新しいことを知ることができました。国によって考え方に違いがあり、それが政治にも表れています。全体的に、アメリカは自由や独立を、日本は公平さを重視しているという印象を受けました。政治に正解はなく、いろいろなことにメリットやデメリットがあります。その中でも国をよりよくするために一生懸命考え、各国で工夫して政治が行われていることは感謝すべきことだと思いました。自分たちの生活は税や国の政治に支えられているということを、心に留めておきたいです。